

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

野崎高校は、昭和 51 年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にする学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、下の三点に重点を置く。

◎生徒の自己実現を最大限に支援する学校

◎すべての生徒が安全・安心に生活できる学校

◎地域としっかり連携して生徒を育てる学校

人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった。」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

2 中期的目標

生徒の自己実現を図るための生きる力を育成し、一人ひとりの希望する進路を実現する。

1 確かな学力への取組み

(1) 「わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。

ア 学力の定着向上を図るための組織的な体制を構築し、ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。

イ 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」を向上させる。

※生徒の授業評価、学校教育自己診断における学習指導における指標の生徒評価を上げる。

ウ 平成 27 年度 学校経営推進費事業による、「ICTを活用した授業」の充実を図るためHR 教室に設置した短焦点プロジェクターの活用充実による授業改善の取組みを展開する。また、同事業により設置した、「オープンラボ」(進路閲覧と自習室機能)と職員室横に設置の質問できる「ミニサプリスペース」の活用のより進路実現達成度の向上を図る。

※外部産業のテストにおける生徒の学力レベルを 29 年度までに 27 年度比で 9%向上させる。

(平成 27 年度獲得の学校経営推進費による「生徒全員 Jump Up! 作戦」の 3 年間の目標)

2 卒業後の進路を見据えた 3 年間のキャリア教育・進路指導の実施

(1) 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成するためのキャリア教育プログラムを実施する。

ア 3 年間を見据えたキャリア教育計画の改善に取り組む。

イ 地元企業や大学、専修学校等との連携を一層進め、インターンシップや学校訪問等により生徒の進路意識の向上を図る。

※学校斡旋による進路決定率は常に 100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に 0%をめざす。

3 高校生として必要な規範意識や社会性・人権尊重の精神や自尊感情の育成に努め、中退防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する(平成 28 年度学校経営推進費事業による「生徒全員 Light Up! 作戦」を、学校の課題に総合的に取り組む「Jump Up! PT」を中心に推進する。)

(1) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成するとともに、教育相談体制のさらなる充実等により、不登校や中途退学や問題事象につながる事象の早期発見早期対応につなげる。

(2) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。

(3) 学校全体で生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させるとともに、部活動、生徒会活動を活性化し、自立心や主体的に行動する態度を養う。

(4) 教職員の資質向上のための研修体制の充実を図る。

※平成 31 年度までに、学校教育自己診断の「マナーや校訓を守っている」「学校はいじめ、差別に対して適切に指導している」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」の項目をすべての学年で 85%以上とする。

※平成 31 年度までに、学校教育自己診断の「遅刻指導、頭髪・服装指導は適切である」の項目をすべての学年で 80%以上にする。

※平成 31 年度までに生徒の卒業率・進級率を 9%向上、中途退学者数を 9%減少させる。

※平成 31 年度までに学校教育自己診断の「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」の項目を 73%以上にする。

4 地域と連携した信頼される開かれた学校づくりのさらなる推進

(1) 里山保全ボランティア事業、地域清掃ボランティア活動を核として、地域の小中学校や大学、関係団体等と連携した学校づくりを進める。

(2) 連携の強化のために、PTA、交友会、同窓会の協力を得て、学校行事を充実させる。

(3) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に地域へ発信する。

※平成 31 年度までに学校教育自己診断の「学校の情報はホームページやブログでわかりやすく提供されている」の項目を 70%以上にする。

※首席を中心とした広報チームによる、組織的な中高連携を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
(授業について) 生徒による授業アンケートにおける授業満足度と達成度の肯定的評価は昨年度より上昇している。また教員向け自己診断における授業改善関連項目の肯定的評価も昨年度より上昇している。しかし、生徒向け自己診断の「授業は分かりやすい」の肯定的評価は昨年度より若干下がっている。1 年生は昨年度より肯定的評価が高いが、2 年・3 年と学年があがるにしたがって評価が下がってくる。さらに、保護者向	(第 1 回 6 月 23 日実施) ・現在の教育活動全般について、様々なことを上手く実施していると評価する。今後教員が入れ替わっても引き継がれるシステムを構築するべきである。 ・中学校への広報活動について、志願者増加に結びつけるために、在校生から中学生に向けて何か話ができる機会をつくる、塾訪問を行うなどの提案があった。 ・高大連携の面で、教員になりたい大学生がかなり増えていることから、教職課程を履修している大学生たちに、野崎高校の教員から、細かな仕事の内容などを教えて頂

府立野崎高等学校

<p>け自己診断でも「こどもは、授業は分かりやすいと話している」の肯定的評価は昨年度より低くなっている。</p> <p>次年度に向けて、現在の授業改善の取り組みを継続しつつ、さらに3年間を見通した授業内容や、選択科目の設定、さらにはカリキュラム全般の見直しが必要と考える。</p> <p>(生徒指導について)</p> <p>生徒向け自己診断において、「頭髪・服装や遅刻指導の適切」や「マナーや校訓を守っている(規範意識)」において、昨年度より肯定的評価が増加している。しかし、保護者向け自己診断では、同様の項目で昨年度より肯定的評価が若干ではあるが減少している。今後とも保護者の理解を得るために、学校からの丁寧な説明が必要と考える。</p> <p>(教育相談体制・人権教育等について)</p> <p>自己診断において、「学校はいじめ、差別に対して適切に指導している」・「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」、また「担任は親身になって相談や悩みに応じてくれる」・「担任以外に相談できる教員がいる」、の各項目の肯定的評価は、生徒・保護者とも昨年度より増加している。</p> <p>一方で教員向け自己診断では、人権尊重の課題や指導方針についての肯定的評価が昨年度より下がっている。本校教員が人権教育のさらなる充実をめざしていると捉え、校内実施体制の再点検が必要と考える。</p> <p>(広報活動)</p> <p>保護者向け自己診断の「学校の情報はホームページ・ブログや資料の郵送等でわかりやすく提供されている」の肯定的評価が72.6%となり、中期目標4の数値目標を達成した。今後は本校生徒や中学生に対して、さらなる情報発信の方法を検討・実施していきたい。</p>	<p>ければと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の立場から、様々な課題を持つ生徒たちへ支援が手厚いと実感している。引き続き、支援・配慮等をお願いするにあたり、集団に馴染めない生徒や、勉強を頑張りたい生徒などに対する支援に、図書室などを積極的に利用してもらいたい。 ・部落差別解消法の施行にあたり、人権教育の内容も変わってくるであろう。 ・地域連携として、小中学生に向けて開放している「100円塾」というものがあり、100円でご飯を食べ、その後に勉強をする塾をしている。ぜひ、野崎高校の先生方にも顔を出してもらえたら嬉しい。 <p>(第2回 11月24日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検や漢検などの資格取得を通じて生徒の自信の向上を促していくようにすべき。資格を身につけると生徒たちの自信にもつながり、昨今大学が生徒の資格を評価していく流れになってきているので、どんどん推進していくべき。 ・広報活動について、本校独自の部活動である太鼓演奏(部落解放研究部)や里山ボランティア部などをもっとアピールするべき。その際、スポーツ等と違って他校と「試合」ではなく「交流」をしていく観点から生徒の視野を広げることが大切。野崎高校における「オンリーワン」の要素をいかに広報で広めていくかが本当に重要。 ・生徒指導について、指導の難しさはよくわかるが、(学校の)魅力作りのために、遅刻や化粧等の外面以外のところでどう目を向けてもらうのかを考える必要がある。また、自転車通学時のマナーについて、特に雨のときの対策は何かないか。私立高校では生徒・教員・警備員が道路に立っている。 ・文化祭は以前より充実してきている。今後は学校経営推進費とPTAからの寄付による照明設備・舞台装置等の一層の活用や、里山ボランティア活動で採集した竹を使った展示など、本校ならではの充実に向けた指導を進めていくべき。 ・外国籍生徒の日本語理解力をどのように上げていくかということもすごく大事。 <p>(第3回 2月15日実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の校則等の点検・見直しについて、ルールを教えている途中の高校生に対しては、学校側がルール設定の意図を説明して許容範囲を明確にし、ルールを遵守しない場合は保護者に連絡することを示したうえで、ある程度は厳しく指導してもいいのではないかと。 ・次年度学校経営計画(案)の中期的目標で提示している「生徒の学ぼうとする力を育成する」は、次の2つの観点から重要である。 <ul style="list-style-type: none"> *本校生徒が社会を生きて行く上で、高等学校での勉強はベースになるはずなので、様々な工夫をして身につけさせていきたい。 *今の世の中では、知識がありふれているので、どのようにして知識や情報を選択するかを身につけさせなければいけない。この点は、本校生徒のキャリア教育にもつなげていくことができる。 ・学校運営という点で志願者の確保が至上命題である。生徒を集めるための手立てを工夫し、継続的に行っていく必要がある。 ・学校教育自己診断での保護者の回答数が少ないのが懸念される。いかにして保護者の意識を学校側に向かせるかも検討していかなければならない。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取り組み	(1)「わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着 ア 授業改善の取組みを進める イ ICT機器等の積極的活用	(1) ア 首席を中心に「授業力向上ミーティング」を開催し、授業評価や基礎力診断テストの結果を踏まえた授業改善に取り組む。また、研究公開授業や内外の研修また、地域の中学校との研究等を通して、授業形態・授業方法の研究・改善に取り組む。また、相互授業見学「オープンクラス」の拡大を図る。さらに、教科会議を活性化させ、シラバスの充実を図り、カリキュラムの検討を進める。 イ ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業への集中力を高める。ICT活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。 ウ H27の学校経営推進費事業による、HR教室短焦点プロジェクター等の活用により、JumpUpPTを中心に学力の取組を進める。	(1) ア 生徒による授業評価において、満足度・達成感を65%以上(H28 63.5%・64.6%) ・生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすい」を65%以上(H28 59.5) イ 技術段階別の、ICT活用研修を実施する。 ウ 外部産業のテストにおける生徒の学力レベルにおいて30%以上の生徒がランクアップ。(H28 2年18.9% 3年34.6%)	ア 12月に実施した生徒による授業評価は、満足度65.8%・達成感を66.7%であった。 ・生徒向け学校教育自己診断で「授業は分かりやすい」の肯定的評価は58.2%(△)。 イ 12月に校内ICT活用研修(野崎ICT活用授業フェス)を実施し、20名以上が参加した。また、8月に教育センターにおけるICT活用推進者養成研修において、本校教員2名が事例発表を行った(○)。 ウ 外部産業のテストにおける生徒の学力レベルにおいて、ランクアップした生徒は28.4%(2年19.2%・3年38.7%)であった(○)。

府立野崎高等学校

<p>3年間のキャリア教育・進路指導の実施</p> <p>2 卒業後の進路を見据えた</p>	<p>(1)一人ひとりの進路実現をめざすキャリア教育プログラムの実施 ア 野崎版キャリア教育プログラムを実施 イ データの共有や活用、生徒の状況を適確に把握。 ウ 進学補講等の取組みを充実</p>	<p>(1) ア・1年次からの系統的なキャリア教育プログラムを実施。 ・地元企業や大学、専修学校等と連携し生徒の進路意識の向上を図る。 イ・学年団と進路指導部との情報交換会を一層きめ細かく行い、外部講師等を活用した研修会を開催する。 ウ 系統的な進学補講等の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・自己診断の「きめこまやかな進路指導」の項目の肯定率を70%以上 (H28 生徒 66.3% 保護者 72%) ・学校幹旋による就職内定率を100%。 ・理由のない進路未決定率0%。(H28 0.5%) イ・進路にかかる相談会を年間3回開催する。 ウ・生徒の実態やニーズ別に実施する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断で「きめこまやかな進路指導」の肯定的評価は、生徒 68.6%・保護者 77.6%であった(生徒が未達成△)。 ・学校幹旋による就職は内定率100%。(ハローワーク経由で応募した結果未定1名を除く) (○)。 ・理由のない進路未決定者はなし (○)。 イ・各学年とも進路指導部との相談会や連絡会議を、各学期に1回以上実施した (○)。 ウ・各学年とも大学・短大(特に看護系)進学希望者への補講を継続的に実施している (○)。</p>
<p>3 高校生として必要な規範意識や社会性、人権尊重の精神や自尊感情の育成に努め、中退防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する</p>	<p>(1)規範意識や自律心の育成 ア 集団生活に必要な規範意識とマナー向上を図る。 イ 中退防止に向けて組織的に取り組む。 (2)他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。 ア 生徒の自信や自己有用感を高める活動を工夫する。 (3)自立心や主体的に行動する態度を養う。 ア 学校行事の工夫改善 イ 部活動の活性化 (4)教員の研修体制の構築を行う。 ア ミドルリーダーを育成する。 イ OJTを基本とした実践的な研修を計画的に実施。 ウ 内外の研修参加による資質向上。</p>	<p>(1) ア・授業規律指導、朝及び授業遅刻指導、服装髪指導等を全校で徹底して行う。 イ・就学対策委員会、教育相談委員会等における情報共有や外部機関との連携を通じ、中退防止に向けて組織的に取り組む。また、配慮を要する生徒に対して、一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を行う。 (2) ア・1年次の早い時期に「仲間づくり」や「言葉づかい」等、コミュニケーションを豊かにするためのプログラムを実施。 ・キャリア教育プログラムとの連動により、体験活動を取り入れた人権教育を推進。 (3) ア・生徒の自立心を養い、主体的な行動力を高めるような、行事のあり方を工夫。 イ・生徒会が中心となり、部活動や里山ボランティア事業への積極的な参加を促す。 ・新入生体験入部の取組みを強化する。 (4) ア・中堅教員に、積極的に学校運営に参画させるとともに、分掌、学年等の組織の長として学校を牽引させる。 イ・「フレッシュパーソンズ研修(新任教員研修)」をさらに充実させるとともに、中堅教員は講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、学校説明会、地域行事等に積極的に参加させる。 ウ・府教育センターの研修や、地域の中学校と連携した研修、校内研修により継続的な教員の資質向上を図る。</p>	<p>(1) ア・遅刻回数を10%減 (H28 10424回) イ・卒業率・進級率を3%向上、中退者数3%減 (2) ア・自己診断の「マナーや校訓遵守」「人権や命の大切さの教育」の項目を80%以上。(H28 82.8%, 74.4%) (3) ア・生徒主体の学校行事等を更に推進する。 ・あいさつ運動を学期ごとに実施する。 ・リーダー研修を実施。 イ・部活動の加入率を35%以上に (H28 34.1%) ・里山BT参加生徒15名以上 (H28 14名) (4) ア・中堅教員を中心に野崎高校の今後を見据え総合的に検討していくPTを立ち上げる。 イ・新転任教員は、学校説明会、地域交流行事、里山ボランティア、出前授業等に参加する。 ・FP研修の内容充実。 中堅教員の講師活用。 ウ・教育Cのインターメディアイト研修を、対象期間内に必ず受講させる。校内研修を年間2回、公開授業を2回以上実施。</p>	<p>(1) ア・今年度遅刻回数は10949回 (△)。 イ・今年度の卒業率は94.3% (昨年度は96.4%)、進級率は84.4% (同88.6%)、中退者数は2月末で28名 (昨年度は32名)。(△) (2) ア・生徒向け学校教育自己診断で「マナーや校訓遵守」と「人権や命の大切さの教育の実施」の肯定的回答は、86.0%と82.5% (◎)。 (3) ア・球技大会(全校・学年別)、体育大会、文化祭等で、昨年度よりも生徒が運営の中心となる取り組みが進んだ。(○)。 ・あいさつ運動は各学期実施した (○)。 ・今年度のリーダー研修は3月27日に実施。また、昨年度リーダー研修に参加した生徒による、体育祭応援団生徒を指導する講習会を9月に実施し、研修成果を還元した (◎)。 イ・部活動の加入率は32% (△)。なお休止状態の部(部員なし)は13.9%で昨年度(27.8%)より減少した。 ・里山ボランティア部員は8名(昨年度5名)、また活動への参加述べ生徒は51名 (◎)。 (4) ア・平成27年度から活動を続けてきたJump Up! PTによる提言を年度末に受けて、次年度からは新カリキュラム編成を中心課題とした新たな取り組みを検討する (△)。 イ・新転任教員は、特に里山ボランティア、中学校訪問、野崎まわり巡視等の各種地域交流行事には数多く参加した (○)。 ・FP対象の教育相談研修や、校内ICT研修において、中堅教員が講師を務めた (○)。 ウ・教育Cのインターメディアイト研修は対象者全員が受講した。また、教職員の人権研修(5月)、教育相談研修(7月)、ICT活用研修(12月)、コミュニケーションツールとしての演劇研修(3月)を実施した。さらに、また初任者1名と10年経験者6名の全員について、公開授業と研究協議を実施した (◎)。</p>
<p>4 地域と連携した信頼される開かれた</p>	<p>(1)地域と連携した学校づくり ア 里山保全ボランティア事業、地域連携の充実。 (2)PTA、同窓会との共働 ア 共働による行事等を充実させる。 (3)広報体制を確立し、情報発信を積極的に行う。 ア 首席を中心とした広報チームの充実を図る。 イ 情報発信するエリアを拡大する。 ウ 発信する内容を学校全体で組織的に充実させる。</p>	<p>(1) ア・里山ボランティアへのさらなる参加。 ・地元保育園や小中学校等と連携した行事への参加促進。 ・地域担当による教職員への働きかけや実践報告を充実させる。 (2) ア・PTA、交友会(PTAのOB会)や同窓会との協働により行事を実施。 (3) ア・HPの充実、ブログの定期的更新や中学校訪問など、情報発信等を積極的に行う。 イ・中学校訪問、中高連絡会、体験入学会、学校説明会、授業公開等の広報活動を充実させる。 ウ・広報活動を学校全体で組織的に行う。</p>	<p>(1) ア・参加生徒数、教員数を増やす。(人数は3(3)イに記載) ・地域連携行事等での実践報告の実施 (2) ア 生徒の進路支援につながる行事を創設。 (3) ア・首席を中心とした広報チームが中心となって広報活動を充実する。 ・公式ブログは随時、HPは定期的に更新。 イ・体験入学会を生徒主導とする。 ウ・広報活動を様々な形態で全職員が行う。</p>	<p>(1) ア・年間参加延べ生徒数51名・教員数60名で、昨年度より大きく増えた (◎)。 ・地域連携行事等での実践報告は次年度以降の課題とする (△)。 (2) ア・2年生対象の進路行事である「卒業生体験を語る会」を同窓会の支援も受けて2月15日に実施した (○)。 (3) ア・今年度のブログ記事は234本、昨年度の106本より2倍以上増加 (◎)。 ・11月の学校説明会の広報活動として、管理職と首席による近隣中学校訪問、説明会の案内を1年生徒が出身中学校に届ける等、新たな広報活動を展開した (◎)。 イ・説明会の運営全般、体験授業の補助、部活動紹介での演技・演奏等を生徒が行い、参加者の事後アンケートで高い評価を得た (○)。 ウ・学校説明会や中学校訪問だけではなく、すべての教育活動(授業・部活動・保護者対応・地域交流等)が広報である、との考えを職員会議等で繰り返し説明した。また1月の学校説明会参加者が99名で、昨年度の同時期より倍増した (○)。</p>